

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 掛川市立北中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒436-0342

静岡県掛川市上西郷220番地の2

E-mail office@kita.ed.kakegawa-net.jp

Website http://www.kakegawa-net.jp/ed/kita/

幼児児童生徒数 男子268名 女子257名 合計525名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では、この地域がもつ森林資源という持続可能な開発資源について知ることや、次世代へその資源を残していくこと、資源を再利用する必要性などを環境教育の一環として学び、資源の有効活用や持続可能な開発について考えられることを目標とした。このことはESDの持続可能な開発のための教育の理念に合致するものであると考えている。地域の未来像を予想して計画を立てたり、里山環境の保持し活かすために多面的に考えたりすることは持続可能な社会作りについて考えるきっかけとなると考えている。また今年度は少しずつユネスコスクールとしての取組も広げていこうとして、国際理解についての取組を始めた。今年度は試行段階ではあるが、学校生活の様々な場面で外国語や他の地域のユネスコスクールの取組やユネスコアジア文化センターの冊子で紹介されている情報を生徒新聞として発行し、それらに触れることで、異文化に対する受容や共感の姿勢を少しずつ養っていくことを目標とした。

以上のように①里山環境の森林資源について学ぶ学習、②森林資源を学び、活用する学習、以上の2点を主な活動とし、③異文化についての受容や共感を養うことをねらいとした生徒の自治的活動を行った。

① 里山環境の森林資源について学ぶ学習

本校の学区は広く、その中には、森林を多く含む。そこで1年生は環境学習として、「大尾山トレッキング」を行ったり、地域の自然体験施設で野外調理を行ったりしている。またこの活動の後半には森林組合の方に樹木の伐採方法や、里山の管理方法、日常の業務内容などについてお話をいただいたり、実際にチェーンソーを使った体験を行ったりした。なぜ林業に就こうと思ったのか、この仕事にはどのような難しさがあるのかといった職業講話と共に数十年という長い年月で考えた場合の森林の維持・管理のお話をいただいた。(資料1)

② 森林資源を学び活用する学習

本校は「学校林」を所有する珍しい学校である。以前は本校に在籍した生徒が苗木を植えたり、下草刈りを行ったりして管理を行っていたが、現在では杉やヒノキが大きく育ったため、その樹木を利用することも行っている。生徒は地域のNPO法人の協力を得て、丸太ベンチを作成している。この学習の中で生徒は加工技術だけでなく、樹木が木材として利用できるまでに育つ年月や特性、森林の手入れなどについても学ぶ。(資料2)

③ 異文化についての受容や共感を養うことをねらいとした生徒の自治的活動

本校はユネスコスクールに加盟してまだ3年目という歴史の浅い学校であるため、ユネスコスクールとしてどのような活動ができるか模索中である。そこで、生徒会活動としてユネスコ委員会を組織し、どのような活動ができるか生徒と共に考えながら進めている。今年度は生徒の提案で、まずは親しむことから始めようと、「Lunch Time English」を始めた。これは昼食の時間に英語で会話をすることで、少しでも母語以外の言葉に親しもうとするねらいがあった。また生徒がユネスコに関する「ユネスコクイズ」を作成し、昼食時に放送した。さらに、交流のレベルまで到達しないとしても、外国と関わりをもちたいと願う生徒のアイデアから、英語の教科書で学んだマザー・テレサが設立したマザーハウスに手紙を送るという活動も行った。生徒は授業で書いた手紙を実際にインドのコルカタにあるマザーハウスに送った。(資料3)

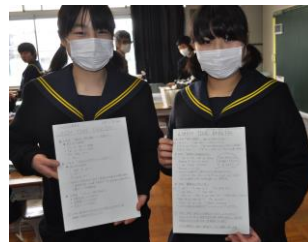
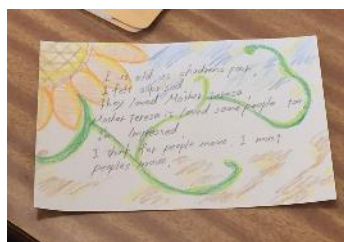
(資料1)



(資料2)



(資料3)



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(委員会活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

市民力でいのちの森づくり — 掛川市の挑戦 — (掛川市 / NPO法人 時の寿の森クラブ 作成)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

持続可能な社会作りに貢献できる人材育成を目指し、環境教育の視点から年間計画を作成している。この計画では技術・家庭科、社会、理科、保健体育、英語、国語の各教科で環境教育に触れる点を挙げ、学校行事、生徒会活動、PTA 活動などとの関連も意識できるようになっている。環境教育に関する特別な授業だけでなく、各教科や生徒の活動と結びつけることで、長期休業に当たる 8 月以外は生徒は環境について考える機会をもつことができるようになっている。（資料 4）

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

PTA 活動の一環として年間に 6 回のリサイクル活動を行っている。各家庭から各地区の集積所で段ボールや古紙を集めているが、それらの依頼と回収には本校の生徒が保護者と協力して各家庭を回っている。この活動は本校で 10 年を越える取組となっており、一回の集積量は 50 トンほどになることもある。立木にするとおおよそ 1000 本分の量の古紙を集めることになり、本校の生徒は 1 年時にこのことを学んでいる。（資料 5） PTA 活動の一環ではあるが、親子で協働して活動するため、生徒も保護者も活動内容を熟知している。生徒に活動の意義と方法を毎年確認していることと、PTA の活動として、事前の回収や当日の運営に保護者に入ってもらっていることで継続が可能になっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価としてはユネスコスクールの活動について触れている箇所はないが、生徒会活動としての評価を行っている。本校では生徒会の組織のひとつであるユネスコ委員会が推進役となっているが、その活動を生徒同士で評価する中で、ユネスコの活動の啓蒙を行ったことや国際理解に関わる活動などについては一定の評価が得られたが、ユネスコスクール同士での関わりをもつことについては、これからの課題として残った。当初はオレゴン州にある本校の姉妹校と連携していく予定であったが、困難であったため、今後は国内のユネスコスクールと情報交換をしていく予定である。ユネスコスクールとしての連携不足を生徒が意識できたことは良い表れであった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

昨年度までは生徒が製作していた丸太ベンチを地域の小学校や幼保園、地区センターなどに贈呈していたため、森林資源や学校林の活用について発信することができていたが、今年度は贈呈式を行っていないため、大きな形での発信はできていない。

日常生活の中で行われた発信の一つとして、家庭科の授業で行われた「エコロプロジェクト」がある。これは各家庭で実践可能な、環境を守るための小さな活動を生徒が決め、実際に行い保護者に確認してもらうという活動である。取り組む内容の差はあったが、持続可能な開発のために、エネルギー問題や食糧問題、ゴミ問題など様々な点から考え、家庭で取り組むことで保護者に知って頂く機会になった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

今年度も昨年度に引き続き学区内の NPO 法人「時の寿の森(ときのすのもり)クラブ」に協力して頂いて、生徒は学校林の間伐材を利用した加工を行った。この活動には時の寿の森クラブの活動に賛同する地域の大工さんも授業のボランティアとして参加して頂き、実際に本校生徒と共に丸太ベンチの製作にあたった。また掛川市森林組合には1年生に向けて林業の仕事の説明したり、里山を維持するための植栽の工夫を説明したりしていただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は実際に交流することはできなかったため、本格的な交流は次年度への課題として残っている。今年度は生徒発行のユネスコ新聞を通じて、国内のユネスコスクールの取組を紹介することに留まった。しかし、ASSC ニュースなどに掲載されているユネスコスクールの取組を生徒が新聞に載せることで、本校もユネスコスクール加盟校の一員だという意識は徐々に高まっている。今後は環境教育に積極的に取り組んでいる加盟校と連携を図ることを考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

環境教育の中でも特に花壇の管理や学校林の間伐、植樹体験には地域のボランティアの方や NPO 法人にも関わってもらうようになり、学校と地域との連携は強くなった。花壇の管理は土壌作りから地域ボランティアの方の知恵を借りて生徒は取り組んだ。間伐体験など、チェーンソーを扱うような危険が伴う作業は地域の方の補助なしには行うことはできず、地域の方と学校や生徒との結びつきは強くなったと感じている。また、生徒は3年間の中で必ず森林について学ぶ機会を得たり、実際に切り出された木材を加工したりする機会を得るようになったため、本校に在籍している間に森林について学ぶという意識をもつようになった。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度は今まで継続してきた地域資源や地域人材を活かしながら環境教育を中心に進めていく予定である。特に前期は本校独自の学校林や里山環境から学ぶ持続可能な森林資源の開発という内容は継続しながら、日常でも行うことができるエネルギーの節約などの環境への取り組みを向上させていく予定である。（資料5）

さらに、本校での推進役となるユネスコ委員会では今まで力を入れることができなかった国際理解やユネスコスクール同士のつながりという部分に焦点をあてて取り組む予定である。本年度に試行した Lunch Time English では上級生になるほど熱心に取り組む様子が見られた。この取組の映像を新年度の始めに1年生や2年生に見せ、意識付けを行っていく予定である。またユネスコスクール同士のつながりという点では、本校のように環境教育に重点を置いている学校と連携を図ることを考えている。本校のように森林資源に限定せず、海洋や河川に対する取組を行っている学校も視野に入れながら連携を取り始めることが来年度の後期の課題である。

(資料4)

6 環境教育

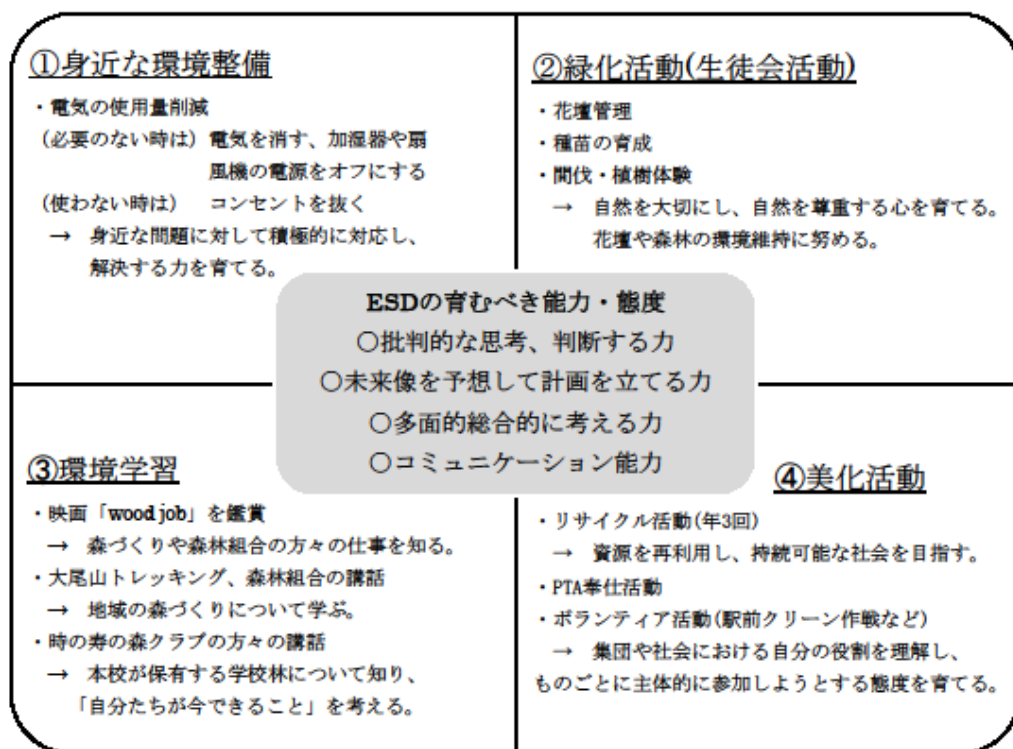
目標

- 身の周りの環境を見つめ、理解を深め、環境を大切にすることを育む。
- ESDの視点を取り入れた実践を行うことで、持続可能な社会作りに貢献できる人材の育成を図る。

※ESD (Education for Sustainable Development) = 持続可能な開発のための教育

現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。

ESDの育むべき能力・態度(○批判的な思考、判断する力○未来像を予想して計画を立てる力○多面的総合的に考える力○コミュニケーション能力)の育成を踏まえ、各教科の環境教育に関連した単元や学習内容が含まれるもの、総合的な学習の時間など、広範な分野において実施していく。



(資料5)



(資料6)

平成 29 年度 環境教育年間計画

掛川市立北中学校

月	課 業			行事、生徒会活動、集会等	PTA活動など
	1年	2年	3年		
4	○木材加工 (技術)	○日本の諸地域 (社会)		◆「WOOD JOB」映画鑑賞 (1年) ○夏花壇の準備	
5	○植物の世界 (理科)	○健康と環境 (保健)		◆大尾山トレッキング、森林組合の方の講話 (1年) ◆時の森の森クラブの方の講話 (1年のみ) ○タウンハイク (2年) ○小さな親切運動 (駅前クリーン作戦) ①	○PTA奉仕活動 (1年) ○リサイクル活動
6		○日本のエネルギー (社会)			
7	○洗濯と環境、服のリメイク (家庭)			○小さな親切運動 (駅前クリーン作戦) ②	
8					
9		○動物の生活と生物の変遷 (理科)		○秋花壇の準備	○PTA奉仕活動 (1年) ○リサイクル活動
10	○身のまわりの物質 (理科)	○「もったいない」の心 (道徳)			
11	○世界地理-南アメリカ (社会)	○ドイツの日本の3R (英語) ○生物育成 (技術)	○日本の四大公害 (社会) ○科学技術と人間 (理科)	○小さな親切運動 (駅前クリーン作戦) ③	
12		○モアイは語る-地球の未来 (国語) ○産業革命 (社会)			
1	○流水と私たちの暮らし (国語)		○自然と人間 (理科)	○春花壇の準備	○リサイクル活動
2		○エコクッキング (家庭) ○天気とその変化 (理科)	○環境に配慮した生活 (家庭)		
3				○小さな親切運動 (駅前クリーン作戦) ④	

✓